

1 未来寄合はこんな場(たたき台)

困っていること・
やってみたいこと・
情報を持ち寄れる場

人・団体・活動と
つながることが
できる場

地域を元気にする
地域へのエントランス

既存のものを活かし、
狭間を埋め、補完し合う場

小さく試して
新しい価値を
生み出す場



3 キーワードで見る みんなの思い

関係 人・団体・活動をつなぐ

目標 幸せに暮らせるまちに

組織 支える人・仕組みづくり

実践 小さく試して動く

地域 北小校区だけでなく
広がりも視野に

楽しさ 気楽に集まれる
オープンな場

2 グループ対話① 未来寄合はどんな場?

たたき台について、「いいところ」「違和感・加えたいこと」を話し合いました。

1グループ

いいところ

- 「幸せに暮らせる」が軸
- 役割が言語化されて
分かりやすい
- 「エントランス」がよい

違和感・加えたいこと

- オープン、出入り自由で風通しの良い場に
- つながりたくない人、個人で過ごしたい人も認められるニュアンスを加えたい

2グループ

いいところ

- 情報を持ち寄るがよい
- 地域へのエントランスがよい
- 全体としてよく考えられている

違和感・加えたいこと

- 北小校区だけでいいか
- 「幸せに暮らせる」を一番の土台に
- 施設・拠点 がほしい
- 地域のコーディネーターのような中心となる人材が必要

3グループ

主な意見

- 対話する場を整えることが重要
- テーマや持ち込む条件を
絞り込む必要がある
- 困っている人自身が、
解決に積極的 でない場合もあり、
意欲的につながれるのか

4 グループワーク② 未来寄合なら、どう動く?

2つの相談ケースから、具体的な動き方を考えました。

CASE A いざという時、 頼れる人が近くにいない

- 公的な制度やサービスの情報を提供
- ママ友など頼れるつながりづくり
- 「好きなこと」をきっかけに集まる
(例: ドーナツの食べ比べ)
- ゆるく助け合える関係づくり

CASE B 学校や地域を使って みんなで新しいフェスを やってみたい!

- まずは、思いやアイデアをじっくり聞き、
一緒に具体化
- 学校の利用や機材・ノウハウを持つ人につなぐ
- 今あるフェスに「相乗り・小判ザメ型」で参加
- 中学校のボランティアサークルなど若者も巻き込む
- 寄付・協賛金・助成金なども活用

5 今回の主な成果

- 未来寄合のイメージがさらに具体的になった
- 地域ビジョンと組織を分けて考える視点が見えた
- 「小さく動く」「つなぐ」「続ける」など、大切なキーワードが出てきた
- より多くの人に関わるための参加の選択肢が見えてきた

次回の予定

2026年10月27日(火)
19:00~21:00

くすのきの家 ふれあい交流ホール

次回のテーマ(予定)

事務局や運営チーム、
組織のあり方について
考えよう

※本事業の財源として、愛知県の「元気な愛知の市町村づくり補助金(人口問題対策枠)」を活用しています。